



今回は進路指導室にいらっしゃる森先生です。

高校生の読書のために

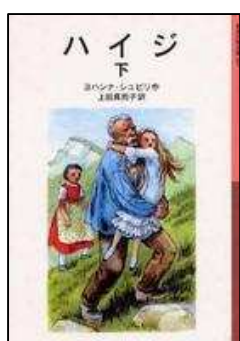
英語科 森 千佐子

高校時代の思い出の一冊と、春休みを迎えるにあたって、本好きの生徒にはぜひ洋書の読書にもチャレンジしてもらいたいと思い選んでみた一冊と、最後は岩波新書の一冊を選んでみました。

(高校時代の思い出の一冊)

"HEIDI" by Johanna Spyri

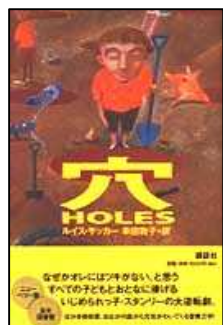
My first recommendation is "HEIDI." An exchange student from Switzerland pronounced "HEIDI" not "ハイジ" but "ヘイディー" in English. "HEIDI" is also popular among Japanese people as "アルプスの少女ハイジ."



This book was given by ちえちゃん, an old friend in my high school days. ちえちゃん and I were in the same class and soon became good friends. She liked English and was a very active girl. She went to church and asked a priest to teach us English for free. We learned English at church every Sunday. For my birthday, she ordered a few English books from England. In those days we didn't have internet. So she had to order them by air mail, a letter. She gave me two English books. One was "Mother Goose Nursery Rhymes" and the other was this book, "HEIDI."

Thanks to ちえちゃん, I had a chance to own a few English books. They were so light compared to Japanese ones. "HEIDI" was the first book for me not only to read in English but also to meet a different culture. I could read this because I had already known the story. So it is one way for you to read English books which you have already known the story.

(英語が平易で読みやすい)



"HOLES" by Louis Sachar

The second book was given to me by an exchange student from America. According to her, this book is written for the 5th grade American students so it is not difficult for Japanese students. In fact, it has a sentence which all the 1st grade

students in Taikyū can read. 実際、この本の書き出し部分には、耐久高校の1年生なら誰もが読めるタイムリーな1行がありました。

The land was barren and desolate.

We have just learned the words "barren" and "desolate", haven't we?

Some years ago, 大藤先生 recommended this book in 図書館だより. In Taikyū library, there is the same book as

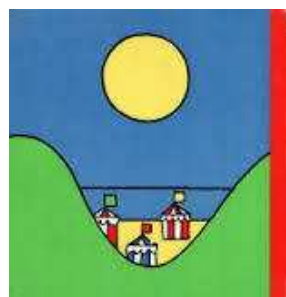
『気負わずに原書にあたる』 森千佐子

this written in Japanese. It will be fun to read them, comparing with each other. まずは洋書にチャレンジして、それから日本語版を読んでみる、というスタイルがおすすめです。わかりにくかった部分も「そういうことだったのか」と思わせてくれると思います。後半部にさしかかるほど、物語はどんどん面白くなっていきます。

(異文化理解の一助となる本)

「日本語と外国語」鈴木孝夫

3冊目は英語や異文化に興味がある生徒には特におすすめです。洋書を読んだり、異文化に触れたりするうちに、日本と同じだなーと思う部分と、まったく違っておもしろいなーと思う部分が出てくると思います。そんなときに読んで感銘を受けたのが、岩波新書の鈴木孝夫著「日本語と外国語」です。ミッフィーといううさぎのキャラクターを知っていますか? 「うさこちゃん」というシリーズで絵本も出ていますが、その絵本の中ではいつも青い空に黄色い丸が描かれています。私には、この黄色い丸がストーリーにそぐわず、なんだか違和感があるなーとずっと思っていました。



「日本語と外国語」を読んでその違和感の原因をようやく理解することができました。

以下に同書 38 ページより少し引用します。(アメリカでの話しです)

～家内が、「英語で太陽の色は何色かしら」と言った。私が「そんなこと赤に決まっているじゃないか」と答えると、「そうでしょう、でもうまく合わないのよ」と、新聞のクロスワード・パズルを持って来た。太陽の色(The color of the sun)というヒントに従って赤(red)を入れると、文字欄が三つ余ってしまうというのだ。私は変だなあといいながらも、思いつくままにいろいろな色彩名を入れてみた。すると黄(yellow)なら上下・左右ともぴったりすることが分かったのである。しかし太陽の色が黄色とは、どう考えても変だ、ということで、さっそくアメリカの知人に電話をかけてみた。すると誰もが、黄色に決まっているじゃないか、どうしてそんな馬鹿なことを聞くのかといった調子なので、本当に驚いてしまった。日本人である私たち二人の心の中には、小さな子供の頃から「白地に赤く、日の丸染めて、ああ美しや、日本の旗は・・・」の「日の丸」をはじめ、白い御飯の真中に赤い梅干し一つの日丸弁当、そして小さな子供たちの描く太陽の絵はみんな赤いクレヨンの丸だったことなどすべてが、太陽は赤いものという確信を育てていたのだ。それが黄色だなんて、それじゃ月じゃないか、というのが私たちの率直な反応だったのである。ところで、英語で太陽が黄色ならば、フランス語やドイツ語ではどうだろうと、すぐ子供の絵本を開いたり、図鑑を出したりして調べてみると、……………(以下略)

古い本ではありますが、言語や異文化に興味がある人はぜひ一度手にとってみてはいかがでしょうか。読書を通じて、みなさんの世界をどんどん広げてほしいと思います。